

ワラング Yakhwalang 隘路で正しく「狭くて深い七つの湖水を連結する一續きの自然水道」を爲すと云ふ一節を附記するのも面白いことと思ふ。困つたことは、此の兩説の裁決者たり得べき筈であつたワタース Thomas Waters は此の點を省いて何等言及してゐない。兎に角、二百里に亙る此の廻遊の爲に、法師は一旦バーミヤーン谿谷と謂はれる狭い範圍の外に出で、それから歸つてカピシヤ(迦畢試) Kapisa 國の方に旅行を續けたに相違ない。

Bāmiyān, Kapisa 間——バーミヤーン谿谷の東口には、通行の出来る道は三つしかないことは地理を見ても明かな所で、一つはカピシヤを他はカーブールを経て、孰れも印度方面に向ふ交通頻繁な街道であるが、それはバーミヤーンから第一宿に當るトプチ Topchi から程遠からぬ處で分岐して二つになつたものである。此の分岐點を詳しく示せばバーミヤーン川の右岸上方、此の川と山間から奔出する谷川との落合の眞上にシャリゾハーク Shahr-i-Zohāk の回教城砦(但し其の基礎は一部分古代のものである)がある、その山麓である。右兩路の中カーブールを通過するものは東南に急折し、側方の小谿谷に進入し